

課題管理実施報告書

報告日：09年6月15日

プログラム	アジア科学技術の戦略的推進:アジア科学技術コミュニティ形成戦略
課題名	日本地球惑星科学連合2009年大会へのアジア研究者の招へい
実施日	2009年 5月 16日(土)～21日(木)
場所	幕張メッセ国際会議場(千葉県)
形式	一般公開・シンポジウム・セミナー・講演会・ワークショップ・その他(学術大会) 展示物(有)(機器・設備 パネル ビデオ上映 体験型 その他()) 無
対象者	一般 学生(中学・高校・大学) その他()
来場者	人数:4807名、(内訳 一般(研究者)および大学院生3757名、一般公開プログラム325名、学部生352名、シニア59名、プレス・出展関係者314名)
周知方法	新聞 雑誌 学会誌 (メディア取材) プレスリリース HP, メール発信 その他()
実施者	○実施取り纏め者を記載 加藤 照之(日本地球惑星科学連合国際学術委員長/東京大学地震研究所 教授)
内容	○実施内容を具体的に記載 日本地球惑星科学連合2009年大会で開催された国際セッション(地圏-大気圏-電離圏結合, 島弧進化, Earthquake Predictability Research, 物質移動と環境評価)へ各1名アジアからの研究者を招聘し、最新の研究成果についての招待講演を実施した。
効果、問題点、今後の展望と課題	○実施した効果を具体的に記載 Earthquake Predictability Researchセッションでは、H21年度からの予知研究計画「地震及び火山噴火予知のための観測研究(建議)」の一課題「地震活動評価に基づく地震発生予測」で推進されている国際連携の一環として招聘し、今回の講演を元に中国の関連研究グループとの国際協力を図りつつ、日本における地震予測研究の推進の可能性を議論することが出来た。また他のセッションでも同様に国際的な研究連携のための情報交換の有効な場となった。1名は滞在期間を延長し、同時期に開催した関連研究集会へもご参加いただき、活発な討論ができた。 ○ 実施上の問題点を具体的に記載 特になし。 ○ 今後のコミュニティ形成に向けての展望と課題を具体的に記載 今回の招聘をアジア科学技術コミュニティ形成のきっかけとみなし、今後も交流が継続できるような戦略的形態に本事業を改良することが課題である。招聘された研究者の研究機関を招聘した日本人研究者が訪問できるように事業形態を改良できれば、交流継続が可能となり、コミュニティ形成に貢献すると考える。
反省事項	○ 上記事項に関する反省点を記載 国際セッションではあったが、日本人発表者に関して言語の問題で内容が招聘者に伝わらないことがあった。また、招聘者が、招待講演だけでなく他のセッションでも講演できるよう手配すべきであった。あるいはこの機会をとらえて、特別講演のような企画をするともっとよかったかもしれない。複数セッションでの講演は、科学技術コ

	<p>コミュニティ形成に貢献できる機会を増やすことに相当する。</p> <p>○ 他の実施者に参考となる事項を中心に記載</p> <p>招聘者は、来日前は連合大会についてほとんど知らなかったが、成田からの交通の便の良さや、幕張メッセ周辺の雰囲気、大会自体のレベルの高さ、インターナショナルセッションが盛況であったことなどに強い感銘を受け、毎年参加したいとまで言われていた。幕張メッセの連合大会に招待されるということを名誉なことであると感じられるように高レベルで活発な議論が行える大会を作る必要がある。</p>
特記事項	<p>○気づき事項、要望等を記載</p> <p>特になし</p>